

外国学図書館LS紙上講習会
2021年3月

イラン立憲革命文学 ①近代化と翻訳

言語文化研究科 言語社会専攻 D2 木下

こんにちは。LSの木下と申します。本日はイラン立憲革命文学について、近代化と翻訳というテーマについてお話しします。

イラン立憲革命とは

- 1905-1911年にイランで生じた一連の政治変動。
- この革命によってイラン政治史上初の
成文憲法の制定と議会制度の確立が実現し、
ガージャール朝君主専制は立憲君主制へと移行
- 日露戦争で憲法を有する日本が勝利したことに
感銘を受けた



まず、タイトルにあるイラン立憲革命とはどのようなものか、お話しします。世界史で習った方は覚えているかもしれませんが、1905年から1911年にイランで起こった、一連の政治変動を指します。

この革命によってイランの政治史上初めての憲法が制定されました。当時、1796年から続いていたガージャール朝は王政でしたが、この出来事によって立憲君主制に以降しました。この立憲革命は、日本の明治時代の憲法制定に大きく影響されたと言われていいます。また、1904年に日本が日露戦争に実質勝利したことは、イラン人を非常に鼓舞したと言います。イラン人は、「アジア唯一の立憲国家が西欧唯一の専制国家に勝った」と捉えて、この立憲革命の必要性をより重く感じたのでした。

立憲革命に至る歴史的背景

- 王朝：**ガージャール朝**
- 1750 イギリス東インド会社、ペルシア湾に→その後1799年から勢力範囲に
- 1813 第一次ペルシア・ロシア戦争に敗北→ゴレスターン条約
- 1828 第二次ペルシア・ロシア戦争に敗北→トルコマンチャーイ条約
- 1890～タバコ・ボイコット運動
- 1896 国王ナーセロッディーンシャーの暗殺
- 1906 **第一次立憲革命**
- 1911 **第二次立憲革命**

では、この立憲革命に至るまで、イランはどのような状況だったのかを見ていきましょう。

イランは、インド側から徐々に勢力を北上させるイギリスと、南下政策を進めるロシアの影響を受けて、「半植民地」状態に陥っていました。特に、19世紀前半のロシアとの2度の戦争に負けたことで、譲渡を割譲するなど大きな痛手となりました。この2度の敗戦によって、イランの知識人は自国の後進性を実感することとなりました。また、王朝がイギリス側に次々と利権を譲渡したことで徐々に国内の不満が募り、さらにタバコの専売権を譲渡したことでこれに抗議するタバコ・ボイコット運動がおきました。この運動によってイランにおけるナショナリズムが強まっただけでなく、反ガージャール朝の機運が高まり、その後の国王ナーセロッディーンシャーの暗殺と、先ほど説明した立憲革命へと繋がっていきます。

立憲革命の流れ

◦ 発端から憲法勅令発布

1905年末、砂糖価格を人為的に高騰させた疑いで商人がテヘラン知事により罰を受ける

⇒ウラマーが反発、「公正の家」（その後の国民議会）の設置を要求

◦ 第一議会～反革命クーデター

1906年10月 第一国民議会開会、財政再建に向けての政策に着手

法の下での市民平等や言論・出版の自由を盛り込んだ条項⇒ウラマーの間で対立

草の根レベルでの立憲運動の広がり⇒王による反革命クーデター

立憲革命は以下のような流れになります。

立憲革命は、1905年末に砂糖の価格を人為的に高騰させた疑いで商人がテヘラン知事により罰せられたことを発端にしています。

この出来事に対してウラマー（神学者）が反発し、「公正の家」の設置を要求します。ただ、このとき設置が要求された「公正の家」は、その後の国民議会へと形を変えています。当初具体的にどのようなものを想定していたかについては、明らかになっていません。

1906年の10月になると、第一国民議会が開催し、まず財政再建に向けての政策に着手します。そして、法の下での市民平等や言論・出版の自由を盛り込んだ条項を制定しました。

しかし、これをめぐってウラマーの間で対立が生じるなど、憲法を制定することは一筋縄ではいきませんでした。草の根レベルで立憲運動が広がっていき、イラン人が徐々に団結してこの革命に加わっていった様子も見られました。これを恐れた王が反革命クーデターを起こしたため、第一次立憲革命は失敗に終わってしまいます。

。革命の終焉

専制への抵抗運動

⇒イラン北部のタブリーズ、ラシュトなどの地方都市で武力闘争

⇒立憲制を回復し、国王を廃位に追い込む

1909年8月、第二議会開会

⇒民法の編纂、初等教育の無償化、財政改革

⇒ロシアの介入により1911年に議会は解散に追い込まれる

☆立憲革命の流れがわかったところで、今度は文学的背景に移りましょう

しかし、再び専制に戻ったことに対する抵抗は続いていました。特に北部の都市では武力闘争が広がり、立憲制を回復し、国王を廃位するに至りました。第2議会が開会し、民法の編纂、初等教育の無償化、財政改革が進められていきましたが、ロシアの介入により議会は解散に追い込まれました。

結果的に、立憲派は勢力を失い、再びロシアとイギリスの影響下に置かれることになりました。

ここまでで立憲革命の流れを把握したところで、今度は文学的背景に移りましょう。

イランの文学的背景

- イランの文学史では**ペルシア語古典定型詩**の地位が圧倒的に優勢
 - ⇨散文はそれほど重要視されず、
民衆文学などの語りは口承が中心
文字化されてこなかった

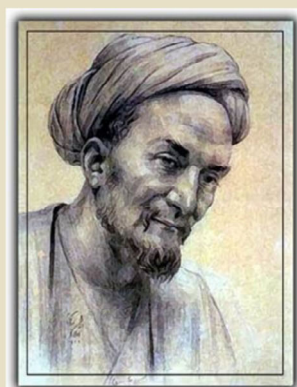
イランの文学史では、宮廷を中心に栄えたペルシア語古典定型詩の地位が圧倒的に優勢です。逆に、散文はそれほど重要視されず、民衆文学などの語りは口承が中心で、文字化された時期が遅かったのです。

宮廷で栄えた古典詩①

◦10世紀～15世紀：宮廷文学の隆盛、古典文学の黄金時代



フェルドゥスィー (934-1025)



サアディー (1210?-1292?)



ハーフェズ (1325-1389)

ここで、イランを代表する3人の詩人を紹介します。

まずは10世紀ごろに活躍したフェルドゥスィーです。彼は叙事詩の形でイランの神話、伝説、歴史を『王書（シャーナーメ）』に書き上げました。この作品は6万対句で書き上げたもので、7世紀のアラブ侵攻から数世紀を経て、イランのアイデンティティを取り戻そうとする狙いがあり、できるだけ純粋なペルシア語を用いたことに特徴があります。

次に13世紀に活躍したサアディーです。彼の代表作は『薔薇園（ゴレスターン）』で、その中でも人類の一体性をうたった詩は特に有名です。この詩は絨毯に記され、NYの国連本部のホールにかざられていることでも有名です。

次に14世紀に活躍したハーフェズです。彼の詩集はペルシア語のコーランともいわれ、各家庭に1冊はある本です。イランでは冬至をお祝いする文化がありますが、この日には彼の詩集を使った占いがされます。

彼らを代表とする古典詩人はイラン人の誇りであり、現在でも人々が当たり前のように暗唱するなど、広く愛される詩人です。

宮廷で栄えた古典詩②

- 16世紀～18世紀...文学の衰退時期と言われる
 - ⇨ インドに詩人が流出、独自のスタイルを築く
- 18世紀後半...「復帰運動」(≡ルネッサンス)で宮廷文学の復活、衰退期を脱却
- 19世紀末～20世紀初頭...西欧型の演劇や小説が**翻訳**を通し受容
 - 立憲革命文学**：政治・社会批判の色が濃い

9世紀～15世紀ごろがいわゆる古典詩の黄金期であると言われてはいますが、その後16世紀から18世紀は文学の衰退時期と言われています。

この時期、宮廷で詩人を保護しない方針をとったために、国内では文学が衰退してしまいました。逆に詩人を保護してくれるインドに詩人が流出し、独自のスタイルを築きました。

その後18世紀後半に「復帰運動」と呼ばれる運動が行われ、宮廷文学が復活し、衰退期を脱却しました。

19世紀末から20世紀初頭にかけて、西欧型の演劇や小説が翻訳を通して受容されていきました。

そして先ほど説明したタバコボイコット運動や立憲革命が起きた時期にかけて、政治・社会批判の色が濃い文学が創作されるようになりました。この時期の文学のことを「立憲革命文学」と呼びます。

今回の講習会で扱うのは、この時期の翻訳と立憲革命文学です。

イラン近代化の諸相

2度の対ロシア敗戦で技術的遅れを痛感したイラン



大宰相**アミール・キャビール**による近代化

- ①軍政改革：軍の近代化・西欧化
- ②**ダーロルフォヌーン**の設置：1851年に創設された近代的高等教育機関
ダーロツタルジョメの設置：翻訳機関→外国の技術書の分野から**翻訳**
- ③印刷所の設置→政府の新聞を発行するなど

翻訳の必要性は、ロシアとの2度の戦争で敗北したことによって高まりました。

特に軍事面での後進性を実感し、当時の宰相アミール・キャビールによって、特に軍事面から近代化が図られました。

まず、①軍政改革：軍の近代化・西欧化が行われました。

次に、②**ダーロルフォヌーン**が1851年に設置されます。これは、イラン初の近代的高等教育機関で、「技術の館」を意味します。それまでの教育は宗教的知識を中心に据えていましたが、この**ダーロルフォヌーン**の設置によって科学の分野が教育に取り入れられるようになりました。この**ダーロルフォヌーン**は、現在のテヘラン大学にあたります。

また、**ダーロツタルジョメ**という、翻訳機関が設置されました。ここで外国の技術書や軍事書の分野から翻訳が始められ、その後文学作品も翻訳され始めました。

そして、③印刷所が設置され、翻訳書の印刷や、政府が発行を始めた新聞の印刷が行われるようになりました。

ちなみに、イランにおいて活版印刷は早い段階から紹介されていましたが、ペルシア書道の伝統が強く、受け入れられるのに時間を要しました。

翻訳を通して進んだ近代化

- 軍事書や技術書の翻訳：対ロシア戦争での敗北から、
この分野における遅れを取り戻す目的
- 文学の翻訳：宮廷文学中心であったイランの文学界に新たな旋風
 - ⇒ 特に戯曲の翻訳から口語や俗語を翻訳から学び、
自らのものとしていった
 - ⇒ 文学の変容

先ほど述べた通り、イランの近代化は翻訳を通して進んだという側面があります。

最初に軍事書や技術書の翻訳が行われ、その後文学の翻訳も進んでいきます。

文学の翻訳は、それまで宮廷文学が中心であったイランの文学界に変化をもたらしました。それは、会話文や口語や俗語が「書かれる」ということにありました。

それまでは文学というものは宮廷や学のある一部の人々のものでしたが、翻訳を通して会話文や口語・俗語が文学に登場することで、その後の大衆文学につながるような要素が見られ始めます。

翻訳と文学の変革

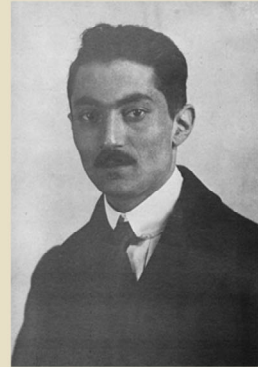
- 戯曲作品の翻訳⇒口語、俗語が作品の中に書かれるようになる
- ペルシア語で書かれた西欧型の小説、戯曲の登場



立憲革命文学



- 現代文学の登場（1921～）：ジャマルザーデの登場
その後の大衆小説への発展



ジャマルザーデ（1892～1997）

翻訳を通して文学に新たな要素が取り入れられ始めると、ペルシア語で書かれた西欧型の小説や戯曲が登場します。

このような創作が盛んに行われた時期は、立憲革命期の文学と重なり、その後の現代文学の登場へと繋がっていきます。

知識人と翻訳：国外

- 亡命者となった知識人：
オスマン帝国、カフカス、イギリス、フランスなどへ
- 宗教的理由...バーク教への傾倒、無神論など
- パンイスラーム主義：アフガーニーにより繰り広げられた

- 国内の検閲の厳しさから、自由に創作することは不可能であった
→ 国外在住の知識人による文学作品の翻訳には、独創性があらわれている
思想の表現方法としての翻訳

イランの文学に変革をもたらした翻訳は、知識人によって担われました。

知識人のうち、国内と国外にいる人々とに大別することができますが、とりわけ国外に移住・亡命した知識人は精力的に執筆活動を行いました。

移住・亡命をした知識人らは、特に宗教的理由により祖国を離れることになりました。当時のイランでは、シーア派の第12代イマームのガイバ（幽隠）からおよそ1世紀が経つにあたり、終末思想が流布していたため、バーク教が出現し、混乱状態にありました。一部の知識人らはこのバーク教に傾倒したり、無神論に至ったりしたため、亡命することとなりました。

また、海外で活躍した知識人らは、アフガーニーによって唱えられたパンイスラーム主義に共鳴し、イスラーム世界での団結を目指していました。

イランは伝統的に検閲が厳しい風土であり、新しい思想を広めようとする知識人にとっては自由に創作することは不可能でした。それゆえ、国外在住の知識人による文学作品や、翻訳作品には独創性が表れています。彼らは、自らの思想の表現方法として、原作にヒントを得ながら翻訳を行いました。

翻訳作品の紹介

◦J.モーリア『ハージーバーバーの冒険』 *The Adventure of Hajji Baba of Ispahan*
(1824年) 英語から日本語への翻訳は東洋文庫にあります

- ミールザー・ハビーブ・エスファハーニー (1835-1893) により翻訳
- 無神論などを理由に**オスマン帝国**に亡命していた
- ペルシア語訳は生前の出版は叶わなかったが、
1905年にカルカッタで出版



ここで、具体的にどのような作品が翻訳されたのかについて、一つご紹介します。

J.モーリアによる『ハージーバーバーの冒険』という英語の作品が、19世紀末にペルシア語に翻案されました（ちなみにこの作品の英語版から日本語への翻訳は、東洋文庫に『ハジババの冒険』としてあります）。この作品は、ミールザー・ハビーブ・エスファハーニーによって翻訳されました。

彼は無神論などを理由に祖国イランを離れ、オスマン帝国に亡命していました。彼はオスマン帝国で、タバコ・ボイコット運動を牽引した新聞にも投稿をし、またペルシア語を教えることで生計を立てていました。ペルシア語訳は生前の出版は叶いませんでしたが、その後さまざまな経緯を経て1905年にカルカッタで出版されました。

ペルシア語版『ハージーバーバーの冒険』の特徴

- 社会風刺、政治批判的内容⇒立憲革命文学
- 会話文、口語・俗語をふんだんに取り入れた文体⇒斬新
- 古典詩、コーラン、ハディースからの援用が散見⇒古典的
- 原文とはかなり異なる点が多い
- **原作者が書かなかった/書けなかったことを追加**
⇒よりイラン的な作品に
翻訳者エスファハーニーの言葉で語り直す

自由な翻訳/翻案

この作品のペルシア語訳の特徴について、以下で簡単に説明します。

まず、英語原作と比較すると様々な箇所を追加や改変、省略が見られます。特に追加や改変された箇所には、原作よりも強い表現で社会風刺や政治批判的内容が見受けられます。当作品は「小説を社会批判の武器として用いた最初の作品である」と言われており、立憲革命文学において重要な位置を占めている所以であるといえます。

また、翻訳を介して会話文はもちろん、ペルシア語の口語や俗語をふんだんに取り入れた文体であり、当時の作品の中では斬新なものでした。

また、随所に古典詩人の詩やコーラン、ハディースから援用されており、この観点からすると古典文学や伝統的要素も取り入れた上で、機微に富んだ作品であるといえます。

翻訳者エスファハーニーは、原作者が書かなかったあるいは書けなかったことを追加し、よりイラン的な作品になっただけでなく、エスファハーニー自らの言葉で語り直しているといえます。

まとめ

- 自由な翻訳による独創性
- 他人の言葉を通して自らの思想を表現⇄検閲との関わり
- 立憲革命文学は、社会批判的内容が色濃く表れている

本日のまとめとして、以下の3点をあげます。

まず、ガージャール朝末期つまり19世紀末の時期には、特に国外在住のイラン人知識人によって、自由な翻訳が行われ、そこには独創性が表れていたということです。

これは、検閲の問題が絡んでおり、他人の言葉を通して自らの思想を表現しようとしたことの表れです。

そして、このような作品は立憲革命文学に位置付けられ、当時の腐敗した政治や弱体化した王朝を批判するなど、社会批判的内容が色濃く表れていました。（了）

参考文献

- Āriyanpūr, Yaḥyā. 1996⁶. *Az Šabā tā Nīmā, tārīkh-e 150 sāl-e adab-e fārsī*. Vol.2. Tehrān: Sherkat-e Qalam.
- Bālāi, Krīstof. 1998. *Peidāyesh-e romān-e Fārsī*. Tarjomeh-ye Mahvash Qavīmī va Nasrīn Khaṭāteh. Tehrān: Enteshārāt-e Mo‘īn. 原書はフランス語の Balay, Christophe. 1998. *La genèse du roman persan moderne*. Téhéran: Institut français de recherche en Iran.
- Bālāi, Krīstof and Mīshel Kūī Pars. 1999² (1987). *Sar-cheshmeh-hā-ye dāstān-e Kūtāh-e Fārsī*. Tarjomeh-ye Aḥmad Karīmī-Hakkāk. Tehrān: Enteshārāt-e Mo‘īn. 原書はフランス語の Balay, Christophe and Michel Cuyper. 1983. *Aux sources de la nouvelle persane*. Paris : Editions Recherche sur les civilisations.
- Kamshad, Hasan. 1966. *Modern Persian Prose Literature*. Cambridge: Cambridge University Press.

- Mir‘ābedīnī, Ḥasan. 2008^s (1998). *Şad sāl-e dāstān nevisī-ye Īrān*. Vol. 1. Tehrān: Nashr-e cheshmeh.
- Mir‘ābedīnī, Ḥasan. 2008. *Seir-e Tahavvol-e adabiyāt-e dāstānī va namāyeshī*. Tehrān: Farhangestān-e zabān va
- adab-e fārsī.
- Vāheddūst, Mahvash. 2017. *Adabiyāt dar Īrān dowre-ye Qājār (naşr)*. Tehrān: Enteshārāt-e Sorūsh.
- 黒柳恒男. 1977. 『ペルシア文芸思潮』世界史研究双書.

今回は、
「イラン立憲革命文学新聞と雑誌の登場」
と題してご紹介します。
楽しみに！

今回は年度を跨いでしまいますが、「イラン立憲革命文学 新聞と雑誌の登場」というタイトルでご紹介します。
楽しみに！